



仙台市立南光台中学校 第42回卒業証書授与式 式辞 校長 伊澤 正人

今年は、例年になく雪も少なく暖冬とはなりましたが、長かった冬の寒さも和らぎ、うらかな春の訪れを感じる頃となりました。春の到来は、夢や輝く未来を感じさせ、皆さんの門出を祝っているようです。

ただ今、卒業証書を渡された122名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。三年間の学校生活がよみがえり、感慨も、ひとしおのことと思います。

今渡した卒業証書は、中学校3カ年の課程を修了するとともに、義務教育9カ年を修了したことを示しています。小・中学校で学んだことを基礎として、次のステップでさらに学び、活躍することを期待しています。

これまでの中学校生活を振り返ってみますと、3年前、期待と不安が入り交じって臨んだ入学式から始まり、教科担任制での授業、部活動、合唱コンクールや体育祭、南中祭などのさまざまな行事を通して、皆さんは1年ごとに大きく成長しました。

特に最上級生となった皆さんは、本校の生徒テーマである「凡事徹底 礼を正し、場を淨め、刻を守る」を、しっかり心に留めて実践しました。集団で行動する時には、大きな声でのあいさつ、礼儀正しく、何事にも一生懸命取り組み、常にバイタリティーに溢れていました。体育祭では、南中始まって以来の学年縦割りの応援合戦を披露しました。体育祭当日の出来映えは大変すばらしく、昼休みや放課後を使って1、2年生を丁寧に指導する姿は、さすが3年生でした。南中の新たな歴史を刻んでくれました。また、合唱コンクールでの金賞を目指してクラス一丸になる姿や、南中祭でのクラス対抗でソーラン節を披露する姿は、1、2年生からの憧れの先輩であり、成長した三年間を感じる場面が実に多くありました。

そんな三年間には、楽しかったことだけではなく、きっと悲しかったり、辛かったりしたことも多かったと思います。しかし、辛く悲しかったことは、家族や友人の支えを得ながら、一つひとつ努力して乗り越えてきたことと思います。

これからの人生においても、常に楽しいことばかりではありません。努力して乗り越えなければならないことも多いと思います。そこで、卒業する皆さんへのはなむけとして、お話をします。それは、「成功の陰には、必ず他人にわからない努力がある」ということです。国民栄誉賞を受賞され、野球の天才と言われた長嶋茂雄さんは「努力は人が見ていないところとするものだ。努力を積みかさねると、人から見えるほどの結果になる」と言っています。また、ドイツの偉大な作曲家で、天才の一人であるベートーベンも、「努力した者が必ず成功するとは限らない。しかし、成功する者は、皆努力している」と言葉を残しています。成功の裏には、必ず他人が知らない努力があることを忘れず、新たな進路先での大いなる活躍を期待しています。

さて、皆さんは、これから21世紀を担う立場にいます。それぞれの時代時代に、その担い手があり、その一人一人の力の結集で、今日の社会ができてきたわけです。歴史上に名を連ねる人物は多くいますが、その人だけでは、世の中を変える力にはなりません。そこに生きた、小さな一人一人の力が、時代を動かしてきたのです。21世紀の時代は、まさに皆さんの肩に掛かっています。今は、家庭や、学校や地域の皆さんに守られながら「力」を付けている時代ですが、何年か後には、その力を世の中のために役立たせる必要があります。皆さんそれぞれに、課された役割を果たし、より良い時代を創り上げ、後世に伝えてほしいと願っています。

最後に私からのお願いは、この式が終わったら、お父さんやお母さんや家族に、最初に「ありがとう」の一言を言ってほしいということです。幼い頃から、君たちの成長を祈り、見守り、支えてきたのはお父さんやお母さんや家族の方々です。雨の日も、風の日も、暑い日も、寒い日も、ある時は君たちの笑顔に喜び、またある時はふさぎ込んでいることに心を痛め、ひたすら君たちの成長を願い心待ちにしてきました。心を込めて「ありがとう」と感謝の言葉をいってほしいと思います。

さあ、卒業生の皆さん、大人への社会へ、自ら一步、歩み出す時がやってきました。明るいあいさつ、素敵な笑顔、思いやりの心あふれる皆さんの明るい未来に幸多かれと祈り、式辞といたします。



…今般の様々な社会状況を鑑みると、「もしかしたら、卒業式ができないかもしれない。」と不安になることもありましたが、このように心温まる式を挙げていただいたこと、卒業生一同、心から感謝申し上げます。これまで多くの時間を共に過ごした仲間と、卒業の日を迎えられたことに胸がいっぱいです。

…学校生活にも慣れ始めた2年生。ここで私たちはひとつの転機を迎えます。それは、予餞式です。「先輩たちに、感謝の思いを伝えたい。」その一心で始めた予餞式の準備でしたが、何かを計画し、実行することの難しさを、私たちは身をもって知りました。理想とかけ離れた合唱やダンス。そのたびに痛感する、先輩方の偉大さ。どうしたらいいのか、迷い、苦しみました。

その時、私たちを動かしたものが、本気で挑戦する気持ちです。なぜ歌うのか。なぜ踊るのか。私たちは本気で考え、悩み、挑戦し続けました。先輩のため、仲間のため、そして自分自身のために挑戦する。私たちの本気を結集した予餞式は、「私たちだってできる。いや、私たちならできる。」と、ひとつの大きな自信を生み出しました。

そして迎えた3年生。ここでも私たちは挑戦し続けました。文化祭での学年発表「南中ソーラン」や、体育祭での応援合戦は、クラスをひとつにし、学年を超え、南光台中学校に新たな風を生み出しました。そしてそれは、「仲間とともに物事を成し遂げる喜び」が、学校全体を包み込んだ瞬間でもありました。体育祭が終了し、全校生徒の晴れ晴れとした表情を見た瞬間、「これまで自分たちが挑戦してきたことは間違っていなかった。」と、自信が確信へと変化しました。

1, 2年生の皆さん。どんなときも私たちと協力してくれたことを、心からうれしく思います。私たちが挑戦し続けることができたのは、みなさんの協力があったからこそ、です。予餞式での発表や、体育祭の応援合戦は、みなさんの協力がなければ成しえないことでした。

何事にも挑戦する気持ちを忘れず、また新しい風を南光台中学校に巻き起こしてください。…

卒業おめでとう、そして、ありがとう。

君たちの 勇姿を、笑顔を、涙を、本気を、声の力を、忘れない。

3学年担任からのメッセージ、愛の『黒板アート』！

先生方がたくさんの装飾で花道を飾りました



↑ 今年のスタンドグラスは『繋ぎ』。思いを引き継ぎます！

今年度の学校だよりは、今回が最終号となります。地域でも回覧していただき、ありがとうございました。次年度も生徒・学校の様子を積極的に発信していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。